

広島安野・中国人強制連行の地を歩く

竹原 陽子

原民喜の小説「夏の花」は、被爆の前々日の8月4日、妻の墓参りへ行く場面にはじまる。

恰度（ちょうど）、休電日ではあったが、朝から花をもって街を歩いている男は、私のほかに見あたらなかった。

軍都広島で、電力は不足していた。

広島市のデルタ地帯を形成した太田川を遡れば、安野発電所など、水力発電所が林立する安芸太田町に到る。5月、「広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会」の川原洋子さんの案内で、中国人強制連行の地を歩いた。

広島市西区から車で1時間ほどで、緑深い山々に囲まれ、静かに川の流れる安野に着いた。



石門収容所を日本に向けて出発する中国人たち
(上羽修著『中国人強制連行の軌跡』より)

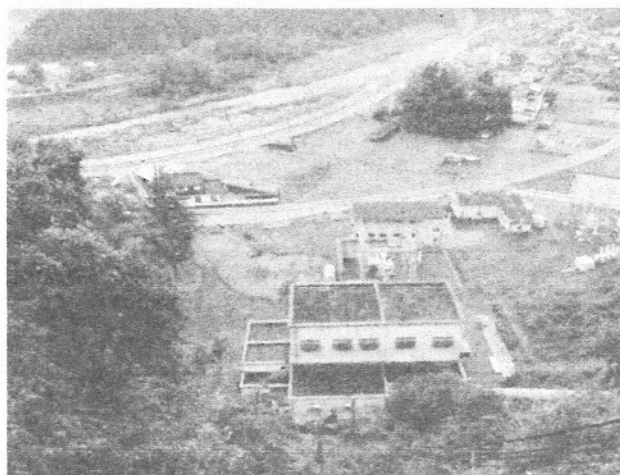
資料をもらい、隊列を組んで本国を出発する中国人の写真を見る。白いタスキのように見えるのは2枚の布団という。どんな薄い布団か。安野は雪も積もる山間の地であるのに。各自が同じ布団を持たされていることから、そのとき既に身ぐるみ剥され、個々人の持ち物など無かったことが想像された。

太田川流域の水力発電所は、日本が韓国を併合し

た1910年から朝鮮人も動員して建設され、安野発電所にも800人もの朝鮮人が働かされていたという。中国人強制連行は、1943年からはじまる。閣議決定を経た国策であった。

さまざまに暴力的に拉致された中国人360人は、貨物船で下関へ送られ、そこから汽車とトラックを乗り継いで1944年8月6日、安野へ到着する。

安野発電所の前で、1946年当時の写真と現在の景色とを見比べた。これが発電所、ここが収容所……。収容所は現存しないが、地形は変わらない。



安野発電所・坪野貯水槽から坪野収容所跡を望む

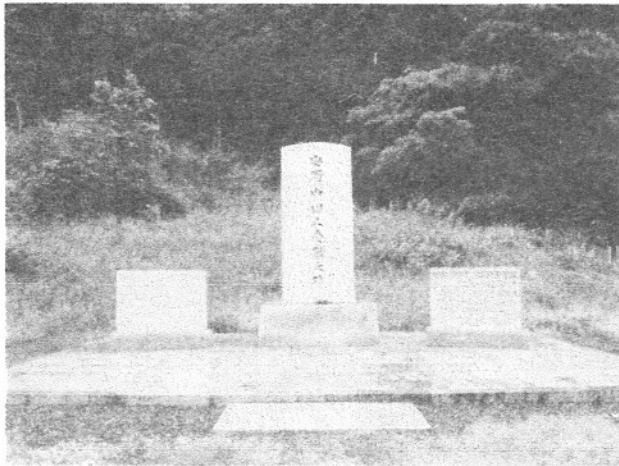
「コの字型の収容所に窓はなく、1つの収容所に約100人が入れられ、出入口に見張りがありました。名前ではなく、番号で呼ばれていました。日本人の監視下で、大隊長や班長とされた中国人が同じ中国人を分断支配する構造、恨まれた大隊長らが撲殺される事件が起きました…。 ああ、こうした話は聞いたことがある。ホロコーストのことが思い浮かんだ。私はホロコーストのことなら、本や映画等でいくらか知っていた。しかし、自分の住む日本の、広島のことにはあまりに知らなかった。

川沿いに点在した収容所跡4ヶ所を巡る。「この

田んぼのところですよ」。狭い田だ。そこに 100 人も入れられていたとは。民家が隣接している。後ろ手に縛られて梁から吊るされた中国人を見たという証言もあると聞く。

夜勤に駆り出され、トンネル作業へ登り下りした山道を、彼らの背を追うように登り、薄い単衣の服にセメント袋を纏い、裸足で雪の上を並んで歩いた路を、彼らとすれ違う想いで歩いた。

安野発電所のある山の中腹に、「安野 中国人受難之碑」が立つ。建立は 2010 年 10 月。被害者、家族、遺族の長い苦しみと、実態を究明して被害者とともに西松建設裁判をたたかい、和解にこぎつけた粘り強い運動が偲ばれた。



碑をみつめ、川原さんらが最初に出会い聴き取りをした生存者 4 人のうちのひとり、徐立伝さんの名前を探し教えてもらった。

徐立伝さんのことは、川原さんらが広島安野の中国人強制連行の実相を明らかにしていく過程を記録した『中国人被爆者・癒えない痛苦 獄中被爆の真相を追う』（明石書店、1995 年 5 月）のはじめに書かれている。徐さんは 1945 年 7 月に起きた大隊長ら中国人 2 人が撲殺された事件に巻き込まれて逮捕され、送られた広島刑務所で被爆、敗戦後釈放されて、一旦安野に戻り、集団帰国した。1992 年 5 月当時、徐さんは末期の歯茎ガンで左顎が大きく腫れており、痛みに堪えながら、被爆の事実を証言。日本

での治療を願ったが、3 ヶ月後に亡くなった。

川は遡らねば。原民喜が「ヒロシマのデルタに／青葉したたれ」（詩「永遠のみどり」）と詠んだデルタの街の上流、きょうも水力発電所が動いている。

（「インフォメーション」第 414 号 2019.6.1
市民運動交流センター（ふくやま）より転載）



7 ページより ⇒

反核平和ソング作り・ノエルベーカーの手紙運動（首相に国連で核兵器廃絶を訴えるように要請はがきを送る取り組み）・原爆瓦の発掘保存運動（この取り組みは原爆犠牲ヒロシマの碑として結実、1982 年 8 月 5 日除幕）・被爆樹木の調査・原爆遺跡調査・朝鮮人強制労働強制連行の調査活動は高暮ダム朝鮮人犠牲者追悼碑の建立（1995 年）に結びつきました。世界の子どもの平和像の建立（2001 年）は、せこへい美術館の取り組みとして継続しています。これら様々な取り組みを広げてきました。

すぐにできること・誰でも参加できること・仲間呼びかけやすいこと・時代と結びついていることなどの特徴があったように思います。特にこの三つの記念碑の建設は、広島の高校生たちが全国の仲間たちと共に切り開いた活動の到達点を示すものといえます。